

2016年度 第6回 静岡市多文化共生懇話会 会議録

1 日 時 平成28年12月12日(月)19:00~20:30

2 場 所 静岡市国際交流協会 1階 第2会議室

3 出席者 多文化共生懇話会委員 10名  
エリック ハナワルト、王川 絹子、小田 エリーザ、カイン モン イー、高畑 幸、  
土屋 真理、デレゲルチチグ、ニアズ アハド、朴政浩、吉野 恵津子  
市事務局、市国際交流協会

4 傍聴者 1名

5 次 第 (1)開会  
(2)意見交換  
「平成27~28年度 多文化共生懇話会 提言書(案)」について  
(3)事務局から  
(4)閉会

○土屋会長

それでは議事に入ります。事前に皆様に郵便でお知らせしてありますが、本日の議題は「平成27~28年度 多文化共生懇話会 提言書(案)」について気が付いたことなどを発表していただきます。その後、本日が最後の会議となりますので、2年間の感想を一人ずつ発表していただきたいと思っております。

○エリック委員

4つの提言の中で、6ページ目の一番下にある「日本語学習は、既に国際交流協会や民間団体等で実施していますが、日本語学習を必要とする外国人住民にその情報が伝わらず」と書いてあるけれど、これは一番大事なポイントになるのではないかと考えています。提言書を読んでいる中で、日本語学習だけでなく、他の分野においても情報提供を充実させることが大事だと思えました。例えばSNSを利用した情報提供など、私もそうですけれども多くの外国人の方はFacebookとかSNSを利用していると思っております。それを使えばもっと早く簡単に伝わるのではないかと考えました。

○小田委員

10ページにある医療機関での通訳について、病院での初診段階での対応とありますが、例え

ば英語で対応する場合、恐らく色々な医学に関する辞書も情報もたくさんあると思いますが、例えばポルトガル語といった場合は、適切な辞書がないんですね。あったとしても薄い物しかなく、そこで適切な対応ができるかどうかというのが言い切れないところなんです。なので、どこまで対応できるのか、配慮が必要だと思っうんですね。なぜかという、やっぱり病院というのは命に係わる問題と、金銭的な問題も生じるし、そこまで責任がとれるかどうかという問題が生じる可能性が高いと思っうんです。

あとは、提言の中で市に求めることが多い内容がありますが、多文化共生と言え、片方だけでは共生できないので、どうしても外国人に対しては日本語を学んでもらわないと、共生は成り立たないと思っうんですね。私の知る限り、既にまちづくりや課題を抱えている外国人の支援に取り組んで貢献している外国人もいます。例えば、公民館や生涯学習交流館で自分の文化などを紹介したり、料理を介してまちづくりに貢献したりしています。それだけではなく、例えば教育で言えば教育委員会を通して、学校訪問をして支援したり、教育の制度を説明したり、いろんな手助けをしていると思っうんです。他にも、自治会に積極的に参加している人もいるし、あるいはダンスや音楽を介して国の紹介する人もいます。その中には、中国人もいれば韓国人も、イギリス人も、アメリカ人も、ブラジル人もフィリピン人もいます。バングラデシュのニアズさんも、かつてバングラデシュの訪問団が市に来た時には、同じ外国人ということで間に入って交流のお手伝いをしました。もし機会があればまちづくりや外国人支援に参加したいと思っう外国人がいますと思っうので、提言書の中に、積極的な姿を見せている外国人がいますということを入れていただくのはどうでしょうか。

### ○デレゲル委員

提言2の①「外国人住民が静岡の文化や伝統を学べる機会の提供」と、提言3の①「同じ地域で暮らす外国人から多文化共生について学ぶ機会の提供」と書いてあるんですけども、お互いに会えば静岡の伝統も伝えられるし、相手から外国人がどんな考え方を持っているかというのが伝わると思っうから、これよりもちょっと具体的に、例えば提言にある表彰制度の創設とか端末の使用とか、そういった具体的な内容を入れていけばもっと実現しやすいかなと思っいました。私は大学院で多文化社会論を学んできました。今回の委員になって、こういうことをやっていくのがすごく現実的なものだと感じられました。この中でずっと考えてきたことというのは、やっぱり今のうちは静岡にいる外国人というのは何千人くらいですけども、これからもっともっと多くなっていくんですね。だから本当に多文化共生社会を根本的に考えようとしたら、やっぱりそういった日本語学校の学習の支援とか、日本語の学習支援とか、そういった色々な交流の組織をつくるとか、それよりもやっぱり根本的に変えようとしたら、日本人が日本国家、ナショナリズムを捨てていく、そして「我々は外国人と同時に社会に生きていますよ」という風に教育していかなければいけないと感じました。以上です。

### ○カイン委員

私は提言1の日本語の学習についてですね、情報が伝わらないということがある場合は、静岡市ががんばっても各自治会や町内会などにちゃんと伝わっていないと、その地域に住んでいる外国人の子ども達がどこで日本語を勉強できるかということがわからないから、情報を積極的に伝えなければいけないと思います。デレゲルさんが言った通り、日本人が外国人と共に暮らしているという知識を持って、積極的に伝える方が大事だなと思います。あともうひとつは、日本語の学習が必要なのは子どもだけではないので、子どもの親である外国人の方々も、お茶会などの簡単な交流会で日本人と一緒に交流して、自治会町内会の中で日本語を少しずつ学べる機会があったらいいなと思いました。

### ○吉野委員

前回と前々回の会議で、外国人が経営しているお店のマップとかを作ったらいね、というお話が出たと思うんですけど、それと同じで、交流館などで活躍している外国人のリストを作ってもらって、それを私達が情報としてもらえれば、次この人を呼んでお話をしてもらおうかという機会を作ることが出来ると思います。マップと一緒にそういうリストもこれには載っていなかったし、そこまで細かいことは提言書には必要ないかもしれないんですけど、そういうことをぜひやっていただきたいなと思いました。交流館で活躍している方は、この交流館で誰がやりましたというのがあれば、交流館に伺えばその人の連絡先がわかるので。

### ○カイン委員

お店だけでなく、外国人の観光客にもお店や静岡市の見るべきところ、例えば登呂遺跡とか、そういう所も載せて、どこどこにあるという風に書いてあるものがあったら、訪問客にとってプラスになるかなと思います。

### ○ニアズ委員

それはありますよね。でもそれに「ミャンマーから来た人が誰を呼ぶか」までは載っていない。自分のメールアドレスか電話番号を載せて、自分の国の人が来たら対応できる形にできれば。

### ○王川委員

同感ですね。最初にエリックさんが言った通り、今の時代はSNSとか、Facebookとか、本当にとっても便利な道具があるので、有効に利用することがとても大切。今吉野さんが言った通り、各外国人がそれぞれ活動していますよ、活躍していますよ、という情報を提供できるか。私は交流館に勤めているけれども、毎年国際理解の授業の時に外国人を探すのは本当に苦労しています。実際、それぞれの国の活躍する方はたくさん静岡にいます。「カインさん、今度連絡先教えてください。来年ミャンマーのことをしましょう」と、そういうネットワークが非常に重要なかと思っています。まず、私達メンバーは今日が最後ですので、できればLINEのグループを作ったらどうかと。さっきエリックさんは「ぜひ入ります」と。そうすると少しで

もネットワークができて、何かある時にみんな協力もできるし、いろんなイベントも広げることができるし、非常に重要だなど。今日のこの提案、とても骨組みは素晴らしくできています。日本人から外国人が、外国人から日本人が学ぶ、本当に充実した内容。どういう風に具体的に実現できるかを少しずつ、ネットワークもひとつだし、食事のマップとか、ひとつひとつ具体的な内容ができれば、もっといいなと感じています。骨組みとしては素晴らしい。良くまとめました。皆さん個々の発言でこんなに立派な内容にまとめていただいて、本当にありがとうございます。素晴らしい。具体的にどういう風にできたらいいなということを充実させたらいいなと感じていますね。まずひとつはネットワークを作ることが非常に重要だと感じています。

### ○高畑委員

今までに出た意見に補足なんですが、11 ページの最後のところに、外国人の訪問客が来た時に同じ出身の国の在住外国人がその交流に参加するという話があったんですが、これをもうちょっと制度化していくために何か名前を付けて、例えば「多文化人材バンク」のような形で、こういうところに協力できるよという人を予め市に登録しておいて、こういうイベントがあったら呼んで来るとか、そのような形で、ひとつの制度として作っていったらいいかなと思いました。ちょっと気になったのが、2 ページの「提言にあたって」のところで、上から4段落目の「また本市が目指す…」から始まるパラグラフなんですけど、5行でひとつのセンテンスになっていて長いので直してほしい。日本人が読んでもすごくわかり辛くて、これはちょっと文としては…。それから次のパラグラフに「インセンティブ」という言葉があるのですが、モチベーションとか動機づけじゃないかなと。インセンティブって金銭的に有利なという意味合いがあるので、何かもらえるのかな、と。モチベーションとかまた来ようと思う動機づけかなと思いました。私からは以上です。

### ○朴委員

提言とかに関しては、正直よくまとまっていると思います。だからずっと高畑先生と同じ、「提言にあたって」を読んでいたんですけど、これが一番の本文なので、一番大切なと思っています。一番好きな単語、といたらおかしいですけど、それをピックアップしたんですけど、6行目の、「地域社会を担うパートナー」だとか、「在住外国人の生活の安定を図る」とか、「世界に輝く静岡の実現」、「第二のふるさと」と言ったすごく素晴らしい単語が光り輝いて私には見えるものですから、大変素晴らしいと思います。正直、本当にすごいなあと何のあれもなく思っているんです。静岡市って、よそから来た人からすると、大変日本人でも生活しやすいと言われますね。ずっと地震さえなければ定住したいと。生活のサイズがちょうどいいみたいなんです。働いて、帰ってきて、買い物して、子育てしてっていう、キャパがちょうどいいぐらいらしいんです。東京だと大きすぎて、すごい大変。満員電車で1時間半、2時間、そういうことがないので、大変素晴らしく環境が整っていて、天から授かった宝物が大変多

い場所であるといったところに、ずっとあぐらをかいてきてきたんです。まあ仕方がないんですけど、海もあり山もありで、そういったところでどうしてもものほほんとしてしまって、今ひとつ。私3期目に呼んでいただいて、可愛がってもらって大変ありがたく、役目を果たしているかは別として、一生懸命参加させてもらってます、本当に。思うんですけど、やっぱりずっとこの骨子の中にもあるんですけど、僕は基本的にニューカマーの方と見地が違うので、僕はオールドカマーで、静岡生まれで静岡育ちで、第二のふるさとではなくて、ふるさとなんです。単純に。ふるさとなんです。そう言った意味では若干違うんですけど、ほぼ限りなく日本人に近い外国人なのであれなんですけど、これは大変良くできているんですけど、基本的にこれはニューカマーに対するものであるということである。だからと言って駄目ではないですよ、大変良くできている。ただ、だからまたここに翻って戻るんですけど、「地域社会を担うパートナー」、「在住外国人の生活の安定を図る」っていったところが、また浮き彫りにされてくるんですけども、僕は朝鮮籍なので外国人なんですけど、日本で生活するためには生活が安定してなくてはならないんですけども、限りなく日本人に近いと言っても、なかなか生活の苦しい人もいっぱいいる、正直。それは100年前のオールドカマーが来た時から、累々と繋がっているケースもあるものですから、難しいんです。成功した者もいるし。その頃と比べると、僕からすると世界は全然狭くなっているんで、先ほど言ったSNSしかり、昔はオールドカマーだけが固まって住んでいたものが、今はニューカマーと混ざりながら生きていくという世界に変わりつつある今現在で、僕は今まで静岡オリジナルのものを前面に出して欲しいと再三申し上げてきました。僕はいつも思うんですけど、静岡人として生きたい、外国人ではなくて日本人も込み込みで全部僕ら静岡人だよと、静岡で生まれて死んでいきたいんだよというところが僕の根底にはあります。その中で、静岡市が本当に中央西部だとかそう言ったところと一線を画くして、静岡オリジナル、例をあげると、サッカーで言うならば、FIFAでずっといつも言っていますけれども、レイシズムは絶対に許さないと書いてますね。FIFAはどんな肌の色でも差別は絶対に許さない。ペナルティに関してはものすごく厳格です。そういったことを静岡市が「静岡市はレイシズムを許さないまちなんだ」といったところを思い切っていっぱい発信していただけると、静岡すごいぞと、住みいいんじゃないかといった形で、今住んでいる人達の安心になるし。行政っていうのはとてつもない力をすごく内包している、秘めていると思うんですね。ただ、その力の方向性をどういった形でもっていくかというのが、こういったひとつの場面でみんな悩むところであって、僕がそう言ったところでひとつ思うのは、静岡市が持っている力、昔で言ったところの建築・土木、そういったハード面のところはひと通り終わっていて、ただ悲しいかな、行政体としては予算を持ったところは力が強いというのがやっぱりあるんですね。お金を持っている所が一番強いよ、というのはほこの会社でもそうなんですけど、それはもう仕方ない。この外国人の共生のところで、いみじくも今日いらっしやいませんですがオランさんが予算が付かないと言いましたけども、やはりリアルな話になっちゃうけれども、謳い文句は素晴らしいが、やはりそこにかかるコストっていうのがどうしてもかかってしまうっていったところで、やはり予算といったものはある程度確保したい

し、取りたいというのがありますね。やりたくてもやれなくなっちゃう。僕も懸念としてそう  
いったことがあるし、ひとつはオリジナリティーをもっと出していただきたい。僕今まで朝鮮  
学校に関してはあまり言及してこなかったんです。あまり知られていないと思いますけど、皆  
さんも、ただオールドカマーがそれこそ100年前に来て、70年前から朝鮮学校というものを創  
って、僕最後だから今日まとめとして言おうかなと思っっているのですが、70年前から朝鮮学校  
というものを運営しているんですけれども、どんどんどんどん規模が小さくなっていて、今  
かなり厳しい状態にある。ニューカマーがそれを見た場合に「えっ、70年前からある学校な  
のに、これ無くなっちゃうんじゃない？」ってなると、「静岡市は何をやってるの」と思うん  
です。単純に。別に静岡市が悪いわけじゃないけれど、人としてそういう風に思っちゃう。  
僕らの立場からすると、補助金うんぬんかんぬんとかそういった予算的なものがかなりどん  
どんどん少なくなっています。70年前、50年前に比べると。そういったものをオールドカマ  
ーが住みやすい街じゃなければ、当然ニューカマーが住みやすい街にはならない、と僕はそう  
いう持論なんですけど、オールドだろうがニューだろうが関係なくて、外国人が住みやすい街じ  
ゃないと当然新たに来る外国人は住めないんだよ。そういったところを、もう少しぶっちゃ  
けやらしい話、お金の話になってしまいますが、既存のものに関してももう少しまた目を見  
開いて、お金を投下してコストに合う様な形で、どんどんどんどんやっていただけると  
いうのは、行政に対するひとつの要望であるけれども。それぐらい行政というものは力があ  
ると信じてます。こういったところで何かしら具現化していただきたいというのを切に願うと  
ころであります。

#### ○土屋会長

続きまして2年間の感想を順番に発表していただきたいと思います。

#### ○吉野委員

2年間本当にありがとうございました。私も最初の自己紹介の時に、自分が一番年上という  
ことでびっくりして、うちの会も新しい会長にもう1年か2年したらなと思いますけれど、  
若い人達の意見をたくさん聞くことが出来て、エネルギーも吸収させていただいて、この  
宿題が出ると必ず会に持って行って、意見言ってちょうだいって言って、一応吸い上げてき  
たんですね。だから本当に色々勉強させていただいて、こんな立派な図式でわかりやすくで  
きていたので、本当にびっくりいたしました。皆さんありがとうございました。

#### ○小田委員

私もこんな立派な提言になって、本当にびっくりしました。今まで年に何回とみんなと集ま  
っていろんな意見を聞いて、私自身もすごい勉強になりました。土屋さんも吉野先生も毎回い  
ろんな飲み物や食べ物を持ってきて、多分みんなリラックスしているいろんな会話ができたからこ  
そこういう立派な提言ができあがったと思っています。

### ○ニアズ委員

本当に2年間なんですけど、一番肝心なことですけれど、さっき言ったようにですね、自分らがここで意見交換をして、本当は社会というか静岡市で実現するのは私達なんです。オールドカマーでもあるし、ニューカマーでもあるし、実現を行政だけに任せて、これをやってくれると思っただけでなかなか難しい。自分らで出来る限りはやっていて、そこでどういうふうに任せるといふか、中に入れてもらうか。それをしなきゃいけないですね。SNSで自分らのコミュニティーを作って、誰かのこういう問題が起きたら誰に連絡するとか、私達の中からグループ作りができれば簡単にみんなに連絡取り易いし、取り次ぐことができるんです。どっちにしても今日の集まりとかも普通の集まりも半分ボランティア感覚なんです。金銭のためじゃないから、ボランティアとして意見交換しているから、そういう気持ちで皆いると思うんですよ。そういう組織という形よりも、ボランティア感覚で組織やグループを作ったら、静岡がもっともつといい静岡になると思うんです。

### ○デレゲル委員

私はSAMEの発表以外に主に日本語で発表するチャンスは本当に少なかったです。今回も皆さんの顔を見て発表をすること自体が、私にとって本当に日本語の訓練になりました。あとは自分が社会学を学んでいく上で、こういった実現に関わってきていること、そして自分も外国人として静岡で生きていくために、また生き残るために、また皆さんと元気に社会を作っていくために、私が何をできるかという今回の懇話会を通して自分でもよくわかりました。よく理解できたと思っております。本当に2年間ありがとうございました。

### ○エリック委員

たくさん欠席させていただいてしまいましたけれども、日本に来てもう5年目になって、今まで生活している中で、ただ私が経験している問題しかわからなかった。こういう場でいろんな国の人の発言を聞いて、それぞれの国の人達がどういう問題に向かっているか、本当により深く理解できた。ありがとうございました。

### ○朴委員

先ほども申し上げましたけれども、会長のおかげで3期目で一番朗らかに意見交換ができ、感謝しています。楽しく、さっきみたいに真面目に参加させてもらっているので、僕自身が大変有意義でした。今、ちょっとえらいことになっていきますね、韓国。大統領があんなになっちゃってるんで、覚えておいて欲しい市長さんで、今現在のソナンという街の市長さん、100万都市ですけれども、そこは、市長が次に大統領になるんちゃうかと今言われています。大変人気が高い。支持率が20%ぐらいある、3人ぐらいいるんですけど、一番若い50いくつの人で、その方が大変苦勞された市長さんで、そのソナン市長さんというのは、首都圏ソウルがあっ

て、その下の方の首都圏で、大体みんなソウルに仕事で行くんですが、東京でいうとのその近隣な感じですよ。福祉にすごく力を入れている市長さんで、若い人が大変職が無いです。日本よりも韓国はやばくて、自分がそれを提起して、若い人達に福祉手当をバンバンバンバン出して市長です。自分が苦学して苦しかった。苦しくてろくに食べ物もなかったような、苦学して弁護士になって市長になった方なので、そういうことをしているらしいです。だから熱意が違うんです、やる気が、オーラが。そういうのって人に伝わるんですね。市長さんの下にいる幹部達も熱いわけです。だから市長の枠にとらわれず、大統領になれ、大統領になれとみんなに言われちゃってる状態なんです。翻って静岡市長さんは、大変おとなしい市長さんで、すごくちょっと心細いなというのがあるので、ひとつの例として挙げただけですけども、本当にさっきも言ったように行政ってすごく力があると思うので、ただそれはトップの市長からワットと熱量が出て、みんなやるぞというパワーが下の幹部達にも渡って行って、初めてこういうものも本物になる。嘘じゃない。本物であると僕は信じているので、2年間本当にいい経験をさせてもらいましたが、田辺市長に本当に僕達が一生懸命作ったものなので、上っ面だけじゃなくて心で読んでくださいという形で言っていただければというのをまたまた切に思います。ありがとうございます。

#### ○高畑委員

2年間お世話になりました。会長さんと副会長さんのおかげですごく和やかな場になったので、話もしやすかったし、良かったです。ありがとうございます。多文化共生という言葉も行政の方で使うようになって10年ぐらいだと、まあ新しい言葉だと思います。この言葉を私もうまく解釈できているか自信が無いんですが、いろいろな意味があるなと思いつつ日々勉強しているんですが、あまり言葉の厳密な意味とかを考え過ぎずに、ライフスタイルとして多文化共生、気が付いたらこの状態が多文化だった、みたいな感じになったらいいんじゃないかな、と考えています。また今後ともよろしく願いいたします。

#### ○カイン委員

本当に2年間、皆さん大変お世話になりました。私も初めてここに参加したんですけど、最初自分なりに自分達の外国人の問題として、自分だけじゃなくて、問題が出たら、他の友達や外国人達にいろいろ聞いたら、やっぱり違う問題もあるかなって、そういう勉強にもなりましたし、その問題について皆様の提案や回答とかもすごく良かったので、自分自身いろいろ勉強になったなと思いました。静岡市自体は、外国人のためにこういうことしているって、今回参加する前はわからなかった。今この会に参加して、いろいろやってるんだなと思いました。あと提言も、私達が2年間やったことをいろいろ書いてあるんだけど、本当に実現できたらしいなと思いました。皆さんありがとうございます。

#### ○王川委員



あっという間に2年間過ぎました。本当に和やかな雰囲気、皆さんとじっくりお話しできて本当に良かったなと思います。ありがとうございます。

○土屋会長

最後になりますけれど、2年間、委員の皆様ひとりひとりから貴重なご意見をいただき、事務局の皆様これをまとめていただきました。そして現実的で意義のある提言を市に対してできるようになりました。関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

それでは、本日の議事は以上です。本日いただいた意見を基に、私と事務局で協議し、本日の案を修正して提言書を作成しますので、御了解をお願いいたします。